

第3学年 国語科 学習構想案

日 時 令和7年10月22日（水）第5校時

場 所 3年1組教室

指導者 教諭 長田 璃乃

1 単元構想

単元名	5 自らの考えを 「複数の意見を読んで、考えよう—正解が一つに決まらない議題と向き合う」(光村図書 P130～135)		
単元の目標	(1)自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。 〔知識及び技能〕 (2)文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。〔思考・判断・表現等〕 (3)言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。〔学びに向かう力、人間性等〕		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。	①文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 ②文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。	①3人の筆者の提言を粘り強く読み、それぞれの文章の内容や特徴を多角的に分析し、自分の評価を言葉でまとめている。
単元終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)		本時のゴールの姿・期待される姿	
多様な話や文章を聞いたり読んだりするときに、話し手や筆者の主張や立場を表現の工夫をヒントに正しく読み取り、多角的に評価して自分の考えを持とうとする生徒。		3人の筆者の提言を評価するときに、整理した情報を比較し、他者の意見を踏まえたうえで多角的に考えて、自分の意見を持とうとする生徒。	
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本時の中心的な学習課題	
3つの提言文を批判的に読み、最も説得力のあるものを選んで、批評文で表現しよう。		整理した情報を比較し、多角的に読んで自分の考えや問いを持つ。	
本単元で働かせる見方・考え方		本時で働かせる見方・考え方	
提言の内容や根拠、展開や表現に着目して、文章を比較し、批判的に読んで評価することを通して、言葉への自覚を高めること。		提言の内容や根拠、展開や表現に着目し、文章を比較して、多角的に読むことを通して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画(6時間取扱い 本時5/6)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○単元を通した学習課題の達成に向けて、学習の見通しを持ち、単元の学習計画を立てる。 ○テーマについての自分の考えを持つ。	【知①】(ワークシート) ★テーマについて自分の考えを持ち、文章にまとめている。
二	2	○3人の筆者の提言をそれぞれ読み取る。	【思①】(タブレット) それぞれの文章を読み、内容や表現などの特徴をまとめている。
	1	○読み取った情報を整理する。	【思①】(ワークシート) 読み取った内容や表現の工夫など、共通点や相違点を明確にしてまとめている。
	1 (本時)	○整理した情報を比較し、批判的に読む。	【思②】(タブレット) ★観点を定め、3つの文章を評価の視点をもとに多角的に評価し、最も良いと思う提言についてまとめている。
三	1	○評価を批評文にまとめ、互いに交流する。	【態】(ワークシート) ★比較の観点や評価の視点を明確にして、批評文を自分の言葉でまとめている。

2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

中学校指導要領第3学年
〔知識及び技能〕(3) 我が国の言語文化に関する事項 オ
〔思考・判断・表現力等〕「C 読むこと」イ、ウ

教材・題材の価値

本教材は、「環境問題を解決するために、今、何が必要か。」というテーマの3つの文章を批判的に読み、提言の内容や根拠、論理の展開、表現の仕方などの多様な観点から比較して評価することを通して、自分の考えを持つことができるものである。

実生活には、明確に1つの正解を出せる問題だけではない。それぞれの立場によって異なる主張や提言の複数出る場面は多くある。その中で、主張や提言を批判的に読んだり聞いたりして、情報を多角的に整理し、自分の考えを明確にすることは必要な力である。情報過多となっている現代社会において生き抜く力をつけるために、批判的に考えたり客観的に判断したりする力をつけることに適した教材である。

本単元における系統

〔中1〕「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ
構成や展開の効果を考える。

〔中2〕モアイは語る―地球の未来
論理の展開を吟味する。

〔中3〕報道文を
比較して読もう

文章を比較的に読み比べる。

〔中3〕複数の意見を読んで、考えよう
―正解が一つに決まらない課題と向き合う

同一テーマに関する複数の立場の意見を読み、比較して評価する。

〔中3〕それでも、言葉を
文章を読んで、自分の意見をもつ。

生徒の実態（単元及び本時の目標につながる学びの実態）

■本単元及び本時を学習するに当たって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（8名）

内 容	十分できる（8割以上）	概ねできる（6～8割程度）	あまりできない（6割未満）	
① 文章中の筆者の主張を適切に読み取ることができる	5	2	1	
② 文章の特徴（論理の展開や表現の仕方など）を読み取ることができる	3	2	3	
③ 複数の情報を比較して、整理することができる	5	2	1	
④ 観点を明確にして文章を評価することができる	1	2	5	

■本単元及び本時の学習に関する意識の状況（8名）

内 容	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
① 文章を読むことが好きだ	2	3	2	1
② 1つのテーマについて複数の視点から考えることが好きだ	2	3	2	1
③ 答えのない問題やテーマについて考えることが好きだ	5	2	1	0
④ ③の回答理由 〈肯定的回答〉・人によってたくさんの発想が生まれるから ・自由に考えた一人一人の想像が面白いから ・答えがなく、どんな答えでも正解だから 〈否定的回答〉・苦手で、変なことを言ってしまうから				
⑤ 他者の主張や提言を批判的に考えて評価していくことは必要だと思う	5	2	0	1
⑥ ⑤の回答理由 〈肯定的回答〉・相手の主張や提言をより深めるため ・全ての提言や主張が正しいとは限らないから ・自分の意見を伝えたり批判したりすることも大切だから ・曖昧な意見ではわからないから 〈否定的回答〉・自信がなくなって多様な意見が出なくなるから				

■考察

【資質・能力に関して】

文章中の筆者の主張を読み取ったり、複数の情報を比較して整理したりすることはほとんどの生徒ができています。また文章の特徴を読み取ることについても半数の生徒は力がついている。しかし、観点を明確にして評価することについては、半数以上の生徒ができていないことが分かる。以上のことから、文章の

様々な情報を読み取る力はあるが、その文章を評価することが苦手な傾向にあると考えられる。社会生活の中で、新聞やネットニュースの記事、様々な著者の書籍等、多様な意見が書かれた文章を読む場面は多くある。その中で、表現の工夫を用いながら述べられる主張を全て鵜呑みにしてしまうのは危険である。これらのことから、「批判的に読むとはどういうことなのか」「評価する際には何を基準にすればよいのか」という2点について自ら考え、考えを広げたり深めたりする場面を設定する。

【学びに関して】

「読書は好きだ」「1つのテーマについて複数の視点から考えることが好きだ」と答えた生徒は過半数であった。本単元は読むことの領域であるため、主体的な取組が期待できる。また、「答えのない問題やテーマについて考えることが好きだ」と答えた生徒は約8割であった。既習事項で理解を深めることができたためだと考えられる。以上のことから、本単元の中心である「批判的に読んで評価する」ことに対して、意欲的に取り組むことができると考える。

一方で、「答えのない問題やテーマについて考えることが好きだ」「他者の主張や提言を批判的に考えて評価していくことは必要だ」の項目に否定的な回答をした生徒もいる。これは、「批判的な読み」という新しい学習事項に対して、難易度を高く感じて不安に思っていることが要因だと考える。

3 指導に当たっての留意点

＜校内研修の視点から（児童生徒を学びの主体に据えた授業づくり）＞

①学ぶ意欲を引き出す「単元のゴール」や「学習課題の設定」

- ・既習単元の学習課題を発展させた「批判的に読み、最も説得力のあるものを選んで、批評文を書く」という学習課題を生徒が設定することで、取り組みやすさを意識させ、学ぶ意欲を引き出す。

②「考える」と「深める」活動の充実

- ・既習単元での学習過程や考えるポイントと対応させ、必要に応じて生徒が振り返ることができるようにすることで、個別に考える活動を充実させる。
- ・協働的な学びの前に、相手の立場を確認させることで、深める活動を充実させる。
- ・「考える」時間に相手の立場を確認させ、「深める」活動の学習形態や時間を進度に応じて自己選択・自己決定させることで、主体的な学びにつなげる。

③「まとめ」と「振り返り」活動の充実

- ・まとめる場面では、個別にまとめをさせ、交流させることで、見方・考え方を広げる。
- ・「な・み・の」の観点を活用し、単元を通して振り返りを蓄積させることで、自分の学びを客観的に確認できるようにする。
- ・個別のめあてを振り返りで確認することで、次時の見通しにつなげる。特に、本文の熟読をはじめ、内容の分析及び情報の整理などの個別の学びに関しては家庭学習で取り組むことで、問いを持ちたり、多角的に読んだりすることにつなげる。

＜人権教育の視点から＞

- 単元を通して、自分と異なる意見を受容する態度を大切にするように一貫した指導を行う。
- 考えを言語化できない生徒には、文型を提示して、自分の考えを表現できるように補助する。

4 本時の学習

(1) 目標

整理した情報を多角的に分析して自分の考えや問いを持つ。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意点・評価 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)	備考
見いだす 見通しを持つ	8分	1 前時を振り返り、本時の課題を確認して、見通しを持つ。 ◇前回までに、3人の筆者の提言をそれぞれ分析してきたよね。今回はそれぞれの提言を批判的に読んでいくんだね。 ◇批判的に読むということは、自分の考えや問いを持つことだったよね。前も新聞記事でやったよね。 【学習課題】 提言に対して、自分の考えを持とう。 【見通し（教科の見方・考え方を働かせて課題解決する方法）】 比較の観点に着目して、批判的に読もう。	(「問い」を生み出す手立て等) ●単元計画で定めた学習課題を示し、全体で確認する。 (課題解決に向けて見通しを持つ手立て) ●前時までの振り返りから、批判的に読むことについて確認する。 (見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け) ●比較の観点（提言の内容、根拠、論理の展開、表現など）に着目して、全体で確認したうえで、観点同士を結び付けながら、批判的に読む。	学習シート
解決する	27分	2 比較した内容をもとに、自分の考えを持つ。 ◇観点と言われると、どれを選ばいいのか悩んでしまうな。どうしよう。 ◇1人でやるほうが集中して進められるから、とりあえず1人でまとめよう。後から他の人の意見を聞きに行こうかな。 ◇自分だけで考えてもうまく進められないから、友達に聞いてみよう。 ◇1人で進めるのは不安だから、先生にアドバイスをもらいたいな。 ◇①の提言のタイトルになっている「有効な対策」とは何だろう。 ◇②の提言は政府のことが書いてあるけれど、私たちにできることは本当はないのかな。 ◇③の提言で、「声を上げることが大切」と筆者が考えるようになったきっかけは何だろうか。 【期待される学びの姿】 批判的に読む視点を意識し、比較した観点を根拠にして自分の考えを表現する生徒の姿。	(個別最適な学びへの手立て) ●批判的に読む視点を板書に示し、考えをまとめる活動を指定の時間まで終わらせるように、学習リーダーが声をかける。 (対話的な学びへの手立て) ●2人以上から意見を聞き、その意見を踏まえて自分の問いや考えをまとめるように学習リーダーの発言を促す。記入する際には問いを青、考えを赤のカードと決め、視覚的に分かりやすくする。 (深い学びへの手立て) ●他者の意見を聞く際には、自分とは異なる立場から考えることを大切にするように板書で示す。 【具体的評価規準】思考・判断・表現① 根拠を明確にして、それぞれの提言に対する自分なりの問いや考えを書き表している。 (方法：タブレット、発言) 【到達していない生徒への手立て】 ●他者の意見を参考にできるように共有ノートで作成し、自由にみられる状態にしておく。また、机間指導の際に、教科書や前時までに内容のどの部分を参考にし、誰の意見を見るとよいのか、助言する。また、ヒントカードを準備し、問いや考えが出にくい生徒にはそのカードを用いて考えるように促す。	タブレット
振り返る	15分	3 互いの意見を確認する。 ◇自分と着目した観点は同じでも、違う問いになるのが不思議だな。 ◇自分とは違う意見だけど、納得した。 【まとめ】※例 ①具体的な数値を出したり図を出したりして根拠を示していて、説得力がある。しかし、タイトルになっている「有効な対策」とは何か明確になっておらず、疑問が残る。 ②語句の説明を丁寧にされていて、内容に納得しやすかった。しかし、私たちにできることが書かれていないため、読み手である自分がどうすべきなのかが全くわからない。 ③私たちにとっても身近な行動の例が書かれていて、とても分かりやすい。しかし、筆者が「声を上げることが大切」だと考える根拠となった事象などが書かれていないため、あまり納得できない。 4 本時の振り返りを行う。	●意見をまとめることはせず、それぞれの生徒が自分の考えを持ったということを確認する。 ●個人のめあての達成度と、「な・み・の」の観点における振り返りを書く。	学習シート

【板書計画】

今日の流れ

- ①見通し
- ②活動
- (〇〇:〇〇まで)
- ③まとめ
- ④振り返り

複数の意見を読んで、考えよう

めあて
提言に対して、自分の考えを持とう。

見通し（教科の見方・考え方を働かせて課題解決する方法）

比較の観点に着目して、批判的に読もう。

考える

★提言
★展開
★表現
★根拠

納得したか
説得力があるか
反論できるか

深める

①
②
③

まとめ

①
②
③

振り返り

【ICT活用計画】

- 単元の導入場面では、タブレットでテーマについて調べ、テーマについての考えを書きやすくする。
- 本時の展開場面では、タブレットを活用してまとめることで、クラスメイトが選んだ文章を確認したり、どのように書いているのかを参考にしたりできるようにする。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

R 6 年度県学力・学習状況調査では **4**（説明的な文章を読み取る）の範囲が該当していた。授業で扱ったものとは異なる、同一テーマに関する複数の文章を比較したり批判的に読んだりして自分の意見を書く適用問題を作成し、本単元終了後に解く。